



洪水はピークを過ぎ
復興の段階へ

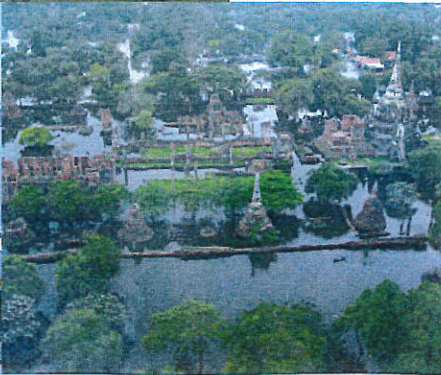
昨年は、3月から豪雨と高波による南部での洪水が始まり、6月末から年末まで国内各地が洪水に見舞われた一年でした。

6月末からは北部で洪水が発生し、7月末にはベトナムに到達した台風の影響で北部ならびに東北部の川が次々と氾濫。また、インドシナ半島に上陸した台風の影響を受け、これらの水は首都バンコクに流れ込むチャオプラヤー川の水位を増大させ、10月にはアユタヤおよび周辺の県をも水没させました。また、ダムの貯水率が100%に達したため、放水を開始したところアユタヤにある大きな工場用地はすべて浸水しました。バンコク北部、パトゥムターニ県にある工業団地も陸軍等を動員して対策を行いました。水の勢いは収まりを見せず、政府洪水対策本部が置かれていた、ドンムアン空港までもが浸水してしまいました。

その後、10月末のタイランド湾の大潮も重なり、排水が思うように進まず、バンコク中心部への浸水も懸念されました。しかし、これを取り囲むように土



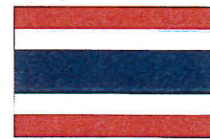
洪水により浸水したタイの各地の様子



嚢の堤防を設置することで、中心街への浸水を食い止めることができました。一方、土嚢の外側ならびにチャオプラヤー川西側の地域の浸水は、その後も長引きました。現在は、大部分の地域で水が排水され、復興の段階に入っています。



From The Kingdom of Thailand (タイ王国)



国家プロジェクトとして
悪臭対策や水質改善に
EMを有効活用

タイでは昨年3月に南部で豪雨と高波による洪水が発生。その後、上流のダムの放水、台風、大潮などが重なり、年末まで中部や首都バンコク周辺へも被害が及びました。現在は大部分の地域で復興の段階に入っていますが、洪水時の水質改善や悪臭対策にEMが威力を発揮しました。

EMRO Asia (株) 小正路 徹

25年以上の実績を誇る
タイでのEM普及活動

タイへのEM導入は1986年に始まりました。本格的な普及は3年後の1989年にコンケン大学で開催された第1回救世自然農法国際会議後のことです。その後、アジア・太平洋地域へのEMならびに自然農法の普及のため、タイ中部に位置するサラブリー県に「サラブリー救世自然農法センター」が設立されました。ここでは国内外の参加者が研修会を通してEMと自然農法を学んでおり、タイおよび東南アジアにおける普及の拠点となっています。また、1997年の経済危機以降、タイ国王は貨幣経済に左右されない「足るを知る経済」を推奨しているため、タイ陸軍は農村の振興を目的に1998年から同センターにてEMと自然農法を学び、各地にモデル農場等を開設し、普及活動を進めています。特に複雑な問題を持つタイ南部では「足るを知る経済」と共に、EM技術が多くの方から支持を得ており、地域振興に大きな成果を上げています。